



川島さんは、元々親父さんと親交があり、幼少の頃、年末に私の自宅で行ってた餅つきに親子で参加してくれたり、吉本新喜劇ツアーに参加してくれたり、小学生の頃は何回か会っていたのですが、箕高野球部の監督室でマネージャーだった川島さんと再会をすると、第一声は「あれ、私この人見たことあるかも？」とすっかり忘れられていましたね。

短大在学中「第1回尾藤杯争奪野球大会」にスタッフとして参加してもらい、卒業前には親父さんの会社に訪問し、マネージャーをお願いしに行った時の事を昨日のように思い出します。親父さんは「何れ野球部の子と付き合って結婚してくれたそれでいいけどな」とポツリと言った言葉が印象でした。球場スタッフをしながらマネージャー業と角谷、奥、谷口に続く4代目女子マネージャーとして頑張ってくれ、4人の女子と一緒に行動を共にした、下元マネージャーからは**「責任感が一番強く、後先を考えて行動出来て、男子顔負けのマネージャーでした」**と絶賛していました。また、年上の選手からは**「可愛がられ」**年下の選手には**「姉御肌」**と慕われ、人間観察も得意？で新林事務員と**「中山に対しての〇〇頭」**いじりや、選手個々の特徴を掴んでの**「〇〇に似て」**と言った**「観察力」**や、新林とタッグを組んで仕事のミスを監督に分らないように隠し通す？**「忍耐力」**、事務局を退職した後も気にかけてくれ電話や何かあれば直ぐに来てくれるなど**「人一倍責任感の強さ」**や、クラブ選手権予選敗退、全国大会出場、日本一になった時など人目もはばからず涙してくれた**「熱き心の持ち主」**と**「一緒に戦った戦友」**として川島マネージャーの引退は寂しさ以上のものを感じます。

何れ、結婚、新しい家庭へと忙しくも楽しい日々になると思いますが、川島マネなら**「八面玲瓏」**の言葉の通り、透き通って、曇りがない清らかに澄み切った心を持ちながら頑張ってください。また、球場には時間を見つけては遊びに来て下さい。